その上で、2023 年 11 月 30 日－12 月 13 日の日程でドバイで開催される予定(本勧告公布日：2023 年 10 月 4 日)されるＣＯＰ２８に対して

『私たちを人間として誇りある気高い者とする歴史的イベントとすることへの真摯な関心がありさえすれば、効率的で、強制力があり、監視が容易、という三条件を満たす、拘束力あるエネルギー転換の枠組みが期待できます。それは・・・新たなプロセスの始まりです。』

『会議の参加者たちには、特定の国や企業の短期的利害よりも、共通善と子供たちの将来とを考慮できる戦略家であってほしいと思います。』と期待を寄せられました。

ＣＯＰ２８への参加を希望されていた教皇ですが、体調への懸念から出席を取りやめ、上記趣旨のメッセージを送り、エコロジー的回心を可能にする共通のビジョンを受け入れるよう招かれ、更に、武器や軍事に使われる資金で、飢餓撲滅のための世界基金を設立し、過去の個別主義やナショナリズムの狭い路地から抜け出し、最貧国の持続可能な開発促進のための活動を実施するように提案を行われました。

この様に気候危機対策を全世界の政治的指導者に訴えると同時に、教皇が何よりもこの使徒的勧告で私たち一人ひとりに訴えたかったことが最終第６章に記載されています。

『カトリック信者に、信仰から生じる動機を思い起こさせずに済ませるわけにはいきません。他の宗教を奉じる兄弟姉妹方にも同じように勧めます。本物の信仰は、人間の心を強めるばかりでなく、生き方を変え、私たちの目標を変え、他者へのかかわりや全被造界とのかかわりを照らし導いてくれることを私たちは知っているのですから。』

『一人ひとりに呼びかけます。私たちの住まいである世界との和解のこの旅路に加わり、それぞれ固有の貢献で世界をより美しくしてください。一つ一つのささやかなことが助けになります。文化の転換がなければ、ライフスタイルや社会通念の成熟がなければ、永続的な転換はなく、また、一人ひとりが変わることなくして文化の転換はないと、胸に刻むことです。』

身の回りの便利な道具を使うことに慣れ親しんだ私たちは、
いきなりライフスタイルを変えることは難しいかもしれません。

しかし、無駄をなくすことはちょっとした気配りで可能です。

ミサ中、誰もいない部屋の電気を消すことくらいは
今日からでも出来るのではないでしょうか。

一人ひとりのささやかな気配りが
神のみ旨に沿ったものとなりますように。